

平成24年第2回定例会（6月）一般質問

(1) 豪雪被害の状況とその対応、対策について

3. 児童・生徒の安全確保

○ 議員 宮下 裕美子 豪雪災害の状況とその対応、対策について3.児童・生徒の安全確保について、この冬は積雪量もさることながら吹雪も日頃に比べて多かったと感じています。特に例年と違うところは早朝、穏やかであっても子どもたちが通学する7時過ぎから吹雪になり、短時間で猛烈にひどくなる場合が何度もありました。今年2月臨時休校が相次ぎましたが、休校にならなかった場合も含めて登校時の児童・生徒の安全確保の観点から対応や判断に改善の余地はなかったのか、疑問を投げ掛けたいと思います。吹雪により休校あるいは登校を遅らせるなどの処置は各学校長の判断によると聞いていますが、月形町では教育委員会がスクールバスを運行していることから吹雪時の対応について教育委員会も判断に関与していると考えます。また学校運営の監督者として教育委員会の認識と対応も重要と考えています。そこで教育長にお伺いいたします。この冬、通学時間帯の吹雪によって児童・生徒の安全確保に課題が残ったと考えていますが、教育委員会はどのように認識しているのでしょうか。教育委員会としては何か対策を講じることはないのか、お伺いいたします。

○ 議長 笹木 英二 教育長

○ 教育長 松山 徹 お答えいたします。宮下議員の言うとおりの冬はかつてない大雪、学校が通常通りに授業を行うと判断した後に天候が悪くなったケースがありました。2月臨時会の際にも同様のご質問をいただいておりますが、緊急に各学校の校長を招集して、改めて融雪期も含めて登下校の安全確保に努めるよう指導すると共に、天候の急変により安全な登校が危ぶまれる場合は登校させないようにIP電話も活用して、その後に確認したところであります。対策として従前どおり学校における指導を重視して、例えば子どもたちが先行き不透明な羅針盤のない時代を生きていくことになるわけですから、自ら危険を回避する力や判断する力、課題を解決する力など次の世代を生き抜くための必要な力を、まずは学校として育てるということで指導すると共に、通学路の確認や除雪セクションとの連携を図ったスクールバスの運行、IP電話の活用などより一層安全確保に努めていきたいと考えています。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下 裕美子 今、教育長から答弁があった内容ですが、自ら危険を回避する力及び通学路の確認、IP電話の活用については、既に2月後半段階で取られた対策であると思います。吹雪などがあって危険真っ最中の緊急避難的な対処で勿論これは重要であると思いますが、それ以降、現在、危険が去った中で平常時に備える何らかの新たな対策及び保護者との十分な話し合いのもと、問題の洗い出しなどが必要ではないかと考えていますが、今、おっしゃられたのは教育委員会と学校側で検討されたことだと思っておりますが、一番問題意識を持っている保護者と十分な話し合いの場を持っているのか。あるいはそこからアイデアを募って対策に繋げるなど、保護者も巻き込んだ活動をされているのか、お伺いいたします。

○ 議長 笹木 英二 教育長

○ 教育長 松山 徹 その後、各学校の校長と協議を重ねており、時期は3月、4月だったと思いますが、PTA役員会または学校評議員会等と各学校長と協議を重ねてという指示をいたしました。その結果、各学校長から今回の冬の雪害については、ほとんどなかったという回答をいただいておりますので、今後とも子どもたちの安全登校については、より一層指導を強めていきたいと考えております。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下 裕美子 実際にケガをした人もいなかったのですが、実態として結果的にはなかったと思いますが、安全確保や不安感を払拭することが被害に出てこなくても、未然に防ぐ様々な手だてが必要であると考えます。今年度から札比内小学校が統合され小中一校体制になって学区が全町に及んでいて、吹雪などの対応自体も難しいことが出てくると思います。今まで月形小学校が各地にモニター制度などを設けて吹雪の状況を判断し、休校を決める制度がありましたが、それを中学校に広めることも可能であると思います。あるいは保護者との話し合いでIP電話だけでなく、今回連絡網も親が自宅を出た後に回る場合もあり、もう少しきめ細やかな対応も可能ではなかったかと思います。それらのもう一步踏み込んだ実態に即した、あるいは学年によってはメールなどを使いながら一斉送信することにより何重にも情報をチェックする様々なかたちで子どもたちの安全を見守ろうという体制も取れると思いますが、それら新しい展開についてもお伺いいたします。

○ 議長 笹木 英二 教育長

○ 教育長 松山 徹 ご質問の中身が多岐に渡っていたので答弁が漏れるかと思いますが、今回の吹雪について学校が判断するのは、細かいことですが午前6時から午前6時30分の間で判断します。それで家庭モニター制度は月形小学校にあります。これは午前6時から午前6時20分の間それぞれ地域の家庭に学校が連絡するシステムになっています。中学

校は同地区ですから小学校とあいまって小学校の連絡を受けて、その地域の月形町は多岐に渡っていますので、その天候を把握して月形小学校、月形中学校、札比内小学校もありましたので、3校が連携して、その判断をしております。今回の冬は学校が判断する時間帯午前6時から午前6時30分、実際に吹雪いた時間帯が通学する時間ということで午前6時50分頃ということから、学校がいったん判断した後の吹雪であったので、急遽、そこで緊急連絡ということで入れたということになりました。防犯対策としてメールやGPSということで確かに実例として他地域であると聞いていますが、これについては携帯電話は受益者負担があるので、難しいことであると判断しております。ですからIP電話を使ってということで、もしも学校が吹雪でなく通常通りですと連絡しなくても、天候の急変や自分の家の周辺の状況が悪ければ、学校の判断を待つだけでなく登校を見合わせることもあり得ることであると思えますし、登下校最中の天候の急変や災害に遭いそうになった場合は、最寄りの家の軒先や玄関に避難することは今も昔も同じで、先ほど言った子どもが自分で危険を回避する力であると思っています。このことは学校を含めて家庭や地域の教えではないかと思っていますので、そのように今後、指導を家庭や地域と連携を深めて行きたいと思っています。現実には数年前に大雨で家の前の道路が冠水した際に水が引いた後に登校させるということで、保護者から学校へ連絡があった例もありましたので、これについては、より一層、学校と協議しながら家庭に連絡したり、地域に広まるようお話をさせていただきたいと思えます。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下 裕美子 子どもが自分の危険を解決する力を育むことは本当に教育の大きな目標であると思えますので、そのことの重要性は必要であると思えますが、それと合わせながら安全な環境を作っていくということで、勿論、家庭や地域との連携や働きかけは一つの方法ですが、システムとして先ほど学校判断が午前6時から午前6時30分で、その後吹雪いた実態があったわけですから、現状をもう一度そのようなことが起きた場合はどのように判断するのか。新しいシミュレーションとして、例えば登校時間1時間遅らせるという連絡があってもいいし、様々な方策はあると思えます。更にもう一歩進めた検討をしていただきたい。それから先ほどのメールのことは受益者負担ということですが、子どもに持たせて欲しいと言っているのではなく、多くの保護者が既に日本中携帯が人口の倍以上普及している状況で、実際に町内のほとんどの人が保護者は特にですが携帯を持っている状況なので、それらを活用した展開も検討の余地があるのではないかと。実際に岩見沢市などでそのように使われていて、成果を上げていたという報告もあります。月形町だ

からできないということはないと考えます。様々な面で色々な方法をとっていただければと考えます。

○ 議長 笹木 英二 教育長

○ 教育長 松山 徹 確かに携帯のメールなどを使って成果を上げている例はありますが、現実問題として途絶えているということもあって、発信したけれど次の家庭に発信されるまでに15分も20分かかってしまったこともあり、これは裏にあって表にはでてこないことです。連絡網についても小学校、中学校もブランチングで4件から5件、学校から電話連絡して各家庭4件から5件が最後に連絡ということで、ここは身近な地域ですから最後に連絡を受けた家庭が学校へ連絡完了の電話を入れるシステムになっていますから、私たちの時代より他の町村と比べると親切であると思っていますが、それもブランチングした家庭によって時間差があるのも実態ですが、合わせて検討させていただきます。もう一点、自宅待機のことですが、道立高校で見られる例ですが月形の場合、今の連絡ということで家庭に連絡を入れた際に不在や電話に出ない家庭もあって、一度、1時間遅れ、2時間遅れというようなことは、道立高校の場合、汽車、バスの関係上、行いますが、小中学校の場合は、天候が回復してから何時間遅れというのは、再度連絡して行かなければならないことがあります。まして月形町はスクールバスですからバスの運行シフトがあって、バス乗車の子どもたちのバス停まで連絡しなければならない状況も生まれると思います。小中学校統合したところについて効果的に自宅待機1時間遅れ、2時間遅れの登校は、あまり聞いたことがない。一部、低温についてはあります。マイナス25度以上になったら1時間遅れで登校してくださいということは、事前にマニュアルがあります。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下 裕美子 今の説明の中でいくつか誤解があったので、修正させていただきたいのですが、メールによるブランチングがあると言いましたが、私が言っているのはメールによる一斉送信ですから、メールを受けた人が次の人に連絡する連絡網の延長線上でメールを使うと言っているのではないのです。メディアが昔に比べれば充実していますから、それらを活用する意味で保護者との取り決めですぐ返信を送るなど何かしらの手立てはいくらでも考えられて、教育長が子どもの頃と必ずしもリンクしないと思いますので、そこはもう少し柔軟に発想していただきたい。スクールバスについても月形町の場合はスクールバスの路線を毎年変更してほとんど各家庭前までバス路線を変更していますので、例えば連絡が行けば家のすぐそばで子どもが待っている可能性があるのですが、保護者がある程度対応することも可能になることも考えられます。先ほど言ったように大きい学校で何十人もいるところではなく、うちの町の子どもたちは1学年20人程度しかいないので

す。それを何回も連絡しなくてはとおっしゃいますが、それらについては対応できる範囲になってきていると考えます。他の所でうまくいっていないからうちの町では検討できないではなく、私たちの町特有の人口規模、スクールバスの運行経路など様々なかたちで個別対応している現実を踏まえて、もう少し、安全、安心を整える環境を教育委員会としても作っていただきたいと考えています。

○ 議長 笹木 英二 教育長

○ 教育長 松山 徹 メールについては、私の解釈が違うと思っております。安全、安心な体制ということで答弁させていただきますが、ご承知のとおり、地域の交通安全協会、事業所、PTAでも街頭指導を行っています。更に今年も警察、安全協会等色々な所に連絡させていただいていますが、これらとあいまって地域の皆さんの協力を得て、今後とも雪害に限ってでなく子どもたちの安全を見守って行きたいと考えております。